

科目区分	司書課程科目						
科目名	図書館制度・経営論						
担当教員	中村 恵信						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	水曜5	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	図書館における政策と経営の考え方及びあり方の理解						
授業の概要	図書館に関する法律、関連する領域の法律、行政制度及び具体的な行政サービスを遂行するための図書館政策について解説するとともに、図書館経営の考え方、職員や施設等の経営資源としての人材・経費・資料等の活用計画について説明を行い、図書館の組織、サービス計画、予算の確保、調査と評価、管理・運営形態及び専門職員の在り方等について解説する。						
到達目標	図書館に関する社会科学的事項を学ぶとともに公共図書館等の図書館の経営の理念とその現状を学び、法と行政制度及び具体的な行政サービスに関する知識を習得し図書館の本質を具体的に見定め、利用者の立場を含めた総合的な視点を習得できるようにする。						
授業計画	第1回 図書館をめぐる法体系 第2回 図書館法逐条解説(1) 総則 第3回 図書館法逐条解説(2) 公立図書館および私立図書館 第4回 地方自治体の図書館関連条例など 第5回 他館種の図書館に関する法律など 第6回 図書館サービス関連法規 第7回 図書館政策(国、地方自治体) 第8回 公共機関・施設の経営方法と図書館経営 第9回 図書館の組織・職員(1) 第10回 図書館の組織・職員(2) 第11回 図書館の施設・設備 第12回 図書館のサービス計画と予算の確保 第13回 図書館業務/サービスの調査と評価 第14回 図書館の管理形態の多様化 第15回 展望及びまとめと試験						
授業外における学習(準備学習の内容)	授業前学習：授業計画や授業中に予告した教科書の該当する箇所を読んできてください。 授業後学習：授業中に説明した内容について図書館等(本学図書館、公共図書館等)で確認してください。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	試験(60%)、レポート(40%)						
教科書	『図書館制度・経営論』(ベーシック司書講座：図書館の基礎と展望：5) 手嶋孝典編著 学文社 ISBN978-4-7620-2194-4						
参考書	授業中に適宜指示します。						

科目区分	司書課程科目						
科目名	生涯学習概論						
担当教員	戸来 知子						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	木曜5	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	一生涯にわたり学び続けることの意味を考える。						
授業の概要	キーワード：生涯学習社会の理解 生涯学習という概念は、1960年代の中頃から新しい教育理念として出てきた。今日では、生涯学習社会を構築するために、学校教育にとどまらず、社会教育の役割も重要になっている。生涯学習論では、教育の原理、および生涯学習の意義を把握し、人間のライフサイクルと共に変化する学びの必要性を理解するし、また、社会教育施設や、教育に関する自治体行財政や法律についても学ぶ。						
到達目標	生涯学習、および社会教育の意義を理解する。生涯学習の歴史的経緯を知る。人間の成長・発達の視点から教育の必要性を理解すると共に、有効な学習方法や学習のニーズを理解する。老人大学をはじめとする様々な社会教育施設を知る。						
授業計画	第1回 オリエンテーション 生涯学習の歴史的側面・理念・目標 第2回 学校教育と生涯学習の関連性・生涯学習の現状 第3回 生涯学習社会における家庭教育・学校教育・社会教育の役割と連携 第4回 日本と外国の生涯学習のあり方の相違 第5回 生涯学習の内容・方法・形態について 第6回 成人期に学ぶことの意義と現状 第7回 老年期の学ぶことの意義と現状。教育老年学の紹介 第8回 生涯学習振興施策の立案と推進に関する事 第9回 生涯学習に関する社会教育行政について・一般行政との関連について 第10回 自治体の行財政制度と教育関連法規について 第11回 様々な社会教育の内容・方法・形態 第12回 社会教育施設及び生涯学習関連施設の紹介とその管理と運営 第13回 学習者への支援と評価の在り方・学習成果の活用について 第14回 社会教育指導者の育成とその役割について 第15回 まとめ・生涯を通して学ぶことの意義の確認						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前 前もって配布した資料等を読んでくること。 授業後 ノートを整理し授業内容を復讐すること。質問や疑問点があれば、次の授業で質問してください。それ以外の時は、E-mailで質問、連絡などをして下さい。(tomoko-herai at nifty.com) *atは@に置き換える。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	試験の点数に小レポートや授業に取り組む姿勢などを2割を目安に加算します。						
教科書	特に指定しない。						
参考書	『生涯学習と自己実現』、堀薫夫、三輪健二著、放送大学教材 『生涯学習論 - 現代社会と生涯学習』、岩永雅也著、放送大学大学院教材						

科目区分	司書課程科目						
科目名	情報サービス演習A						
担当教員	中村 恵信						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	2	単位数	1.0
授業のテーマ	インターネット情報資源の情報検索サービスの実際と演習						
授業の概要	情報サービスの意義を明らかにし、レファレンスサービス及び情報検索サービスの設計から評価に至る各種の業務、利用者の質問に対するレファレンスサービスと情報検索サービスを通しての回答を行い、積極的なコラボレーション型情報サービスの演習を通して、総合的かつ、実践的な能力を養成する。						
到達目標	インターネットを通じた情報検索演習を主に行うが、新課程の科目の考え方により、情報サービス演習として統合された観点からレファレンスサービスカウンターでのコンシェルジュ（総合案内係）としての情報検索端末及び参考図書によるレファレンスサービスを行えるレファレンスライブラリアンを目指す。						
授業計画	第1回 情報サービスの設計（レファレンスサービスの体制作りを含む） 第2回 情報サービスの方法・プロセス（レファレンスインタビューとレファレンスプロセス等） 第3回 情報検索サービスの技法と実際（論理演算、トランケーション、キーワード、シソーラス、マッピング、検索評価等） 第4回 情報資源の探し方 第5回 Webページ、Webサイトの探し方 第6回 図書情報の探し方 第7回 雑誌の探し方 第8回 雑誌記事の探し方 第9回 新聞記事の探し方 第10回 言葉・事柄・統計の探し方 第11回 歴史・日時の探し方 第12回 地理・地名・地図の探し方 第13回 人物・企業・団体の探し方 第14回 法律・判例・特許の探し方 第15回 今後の情報サービス及びまとめと試験						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前学習：授業計画や授業中に予告した教科書の該当する箇所を読んできてください。 授業後学習：授業中にできなかった演習問題の回答を試みてください。						
授業方法	講義及びパソコン、インターネットによる演習問題の回答作成						
評価基準と評価方法	試験（50%）、授業での演習課題への取り組み及び発表（50%）						
教科書	『情報サービス演習』（現代図書館情報学シリーズ；7） 原田智子編、 樹村房、 ISBN978-4-88367-207-3						
参考書	授業中に適宜指示します。						

科目区分	司書課程科目						
科目名	情報サービス演習A						
担当教員	中村 恵信						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜5	配当学年	2	単位数	1.0
授業のテーマ	インターネット情報資源の情報検索サービスの実際と演習						
授業の概要	情報サービスの意義を明らかにし、レファレンスサービス及び情報検索サービスの設計から評価に至る各種の業務、利用者の質問に対するレファレンスサービスと情報検索サービスを通しての回答を行い、積極的なコラボレーション型情報サービスの演習を通して、総合的かつ、実践的な能力を養成する。						
到達目標	インターネットを通じた情報検索演習を主に行うが、新課程の科目の考え方により、情報サービス演習として統合された観点からレファレンスサービスカウンターでのコンシェルジュ（総合案内係）としての情報検索端末及び参考図書によるレファレンスサービスを行えるレファレンスライブラリアンを目指す。						
授業計画	第1回 情報サービスの設計（レファレンスサービスの体制作りを含む） 第2回 情報サービスの方法・プロセス（レファレンスインタビューとレファレンスプロセス等） 第3回 情報検索サービスの技法と実際（論理演算、トランケーション、キーワード、シソーラス、マッピング、検索評価等） 第4回 情報資源の探し方 第5回 Webページ、Webサイトの探し方 第6回 図書情報の探し方 第7回 雑誌の探し方 第8回 雑誌記事の探し方 第9回 新聞記事の探し方 第10回 言葉・事柄・統計の探し方 第11回 歴史・日時の探し方 第12回 地理・地名・地図の探し方 第13回 人物・企業・団体の探し方 第14回 法律・判例・特許の探し方 第15回 今後の情報サービス及びまとめと試験						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前学習：授業計画や授業中に予告した教科書の該当する箇所を読んできてください。 授業後学習：授業中にできなかった演習問題の回答を試みてください。						
授業方法	講義及びパソコン、インターネットによる演習問題の回答作成						
評価基準と評価方法	試験（50%）、授業での演習課題への取り組み及び発表（50%）						
教科書	『情報サービス演習』（現代図書館情報学シリーズ；7） 原田智子編、樹村房、 ISBN978-4-88367-207-3						
参考書	授業中に適宜指示します。						

科目区分	司書課程科目						
科目名	情報サービス演習B						
担当教員	槻本 正行						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	火曜4	配当学年	2	単位数	1.0
授業のテーマ	情報サービス演習Aのあとを受け、具体的なレファレンス質問の調査、回答の過程を通じて種々の図書館情報資源を用いるための基本的かつ実践的な知識、技能を養う。また、レファレンスサービス、情報検索サービスの記録の意義や評価について学ぶ。情報発信型の情報サービスについての基礎的な実践的知識を身に付ける。						
授業の概要	レファレンス質問に対する回答の作成、情報サービスの評価方法、発信型情報サービスについての演習を行う。						
到達目標	図書館情報資源のなかで基本的かつ重要なレファレンスブックスについての知識と利用法を修得する。データベース、インターネット情報資源による調査と印刷媒体の参考図書による調査の特徴、差異を体得する。情報サービスの評価、情報発信型サービスの手法を理解し、実際にできるようになる。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 演習のガイダンス 参考図書の評価法 2. 参考図書の評価演習 3. レファレンス質問の調査 1) ことば、文字に関する問題 4. レファレンス質問の調査 2) 人名、人物に関する問題 5. レファレンス質問の調査 3) 歴史、日時に関する問題 6. レファレンス質問の調査 4) 図書、雑誌の書誌的事項、所蔵に関する問題 7. レファレンス質問の調査 5) 新聞記事に関する問題 8. レファレンス質問の調査 6) 雑誌記事に関する問題 9. レファレンス質問の調査 7) 法令、統計に関する問題 10. レファレンス質問の調査 8) 探索質問としての書誌作成 11. レファレンス質問の調査 9) 書誌作成の演習 12. 情報サービスの記録と評価 -レファレンスコレクションの評価、情報検索サービス・レファレンスサービスの評価 13. 発信型情報サービス 14. パスファンダーの作成、リサーチナビ 15. まとめ <p>前期の「情報サービス演習A」を引き継いで、レファレンス質問の調査、回答の演習を行う。また、クラスでの発表や受講生の演習への参画度合によって、演習の進捗が変更されます。</p>						
授業外における学習（準備学習の内容）	ほぼ毎回レファレンス質問の調査課題が課されるので必ず提出すること。						
授業方法	最初の2回を除きほぼ毎回課題が課せられる。その課題の調査結果を発表し、受講学生、担当教員で検討をする演習形式で進めていく。						
評価基準と評価方法	授業での課題の調査、発表等の授業への参画度(20%)と成績評価レポート(80%)によって評価する。						
教科書	原田智子編『情報サービス演習』樹村房、2012年刊 ISBN978-4-88367-207-3（情報サービス演習Aと同じ教科書を引き続き使用します）						
参考書	<p>課題、回答例等は適宜プリントを配布します。</p> <p>長澤雅男、石黒祐子「情報源としてのレファレンスブック」新版 日本図書館協会、2004</p> <p>西田文男監修「情報サービス」第3版 学芸図書、2007</p>						

科目区分	司書課程科目						
科目名	情報サービス演習B						
担当教員	槻本 正行						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	火曜5	配当学年	2	単位数	1.0
授業のテーマ	情報サービス演習Aのあとを受け、具体的なレファレンス質問の調査、回答の過程を通じて種々の図書館情報資源を用いるための基本的かつ実践的な知識、技能を養う。また、レファレンスサービス、情報検索サービスの記録の意義や評価について学ぶ。情報発信型の情報サービスについての基礎的な実践的知識を身に付ける。						
授業の概要	レファレンス質問に対する回答の作成、情報サービスの評価方法、発信型情報サービスについての演習を行う。						
到達目標	図書館情報資源のなかで基本的かつ重要なレファレンスブックスについての知識と利用法を修得する。データベース、インターネット情報資源による調査と印刷媒体の参考図書による調査の特徴、差異を体得する。情報サービスの評価、情報発信型サービスの手法を理解し、実際にできるようになる。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 演習のガイダンス 参考図書の評価法 2. 参考図書の評価演習 3. レファレンス質問の調査 1) ことば、文字に関する問題 4. レファレンス質問の調査 2) 人名、人物に関する問題 5. レファレンス質問の調査 3) 歴史、日時に関する問題 6. レファレンス質問の調査 4) 図書、雑誌の書誌的事項、所蔵に関する問題 7. レファレンス質問の調査 5) 新聞記事に関する問題 8. レファレンス質問の調査 6) 雑誌記事に関する問題 9. レファレンス質問の調査 7) 法令、統計に関する問題 10. レファレンス質問の調査 8) 探索質問としての書誌作成 11. レファレンス質問の調査 9) 書誌作成の演習 12. 情報サービスの記録と評価 -レファレンスコレクションの評価、情報検索サービス・レファレンスサービスの評価 13. 発信型情報サービス 14. パスファンダーの作成、リサーチナビ 15. まとめ <p>前期の「情報サービス演習A」を引き継いで、レファレンス質問の調査、回答の演習を行う。また、クラスでの発表や受講生の演習への参画度合によって、演習の進捗が変更されます。</p>						
授業外における学習（準備学習の内容）	ほぼ毎回レファレンス質問の調査課題が課されるので必ず提出すること。						
授業方法	最初の2回を除きほぼ毎回課題が課せられる。その課題の調査結果を発表し、受講学生、担当教員で検討をする演習形式で進めていく。						
評価基準と評価方法	授業での課題の調査、発表等の授業への参画度(20%)と成績評価レポート(80%)によって評価する。						
教科書	原田智子編『情報サービス演習』樹村房、2012年刊 ISBN978-4-88367-207-3（情報サービス演習Aと同じ教科書を引き続き使用します）						
参考書	課題、回答例等は適宜プリントを配布します。 長澤雅男、石黒祐子「情報源としてのレファレンスブック」新版 日本図書館協会、2004 西田文男監修「情報サービス」第3版 学芸図書、2007						

科目区分	司書課程科目						
科目名	情報サービス論／情報サービス概説						
担当教員	中村 恵信						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	火曜5	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	図書館における各種情報サービスの総合的な概説						
授業の概要	情報サービスを行ううえでのレファレンスライブラリアンとして必要かつ基本的なレファレンスサービスと情報検索サービスに関わるサービス提供方法の融合化を目指し、従来の参考図書及び新しい情報源を理解し、あらゆる質問に総合的かつ、実践的に対応できる能力を育成する。又、各種新しい情報サービスの事例紹介を行い、情報サービス演習（レファレンスサービス演習及び情報検索サービス演習）の概説としての説明も行う。						
到達目標	図書館における情報サービスの意義を明らかにし、レファレンスサービス、情報検索サービス等のサービス方法、参考図書（レファレンスブック）・各種データベース等の情報源、図書館利用教育、発信型情報サービス等（パスファインダー・機関リポジトリ等）の新しいサービス等について理解する。						
授業計画	<p>第1回 インターネット時代における情報社会と図書館の情報サービス</p> <p>第2回 図書館における情報サービスの意義と種類(1)（レファレンスサービス、情報検索サービス等）</p> <p>第3回 図書館における情報サービスの意義と種類(2)（レフェラルサービス、カレントアウェアネスサービス、読書相談、利用案内等）</p> <p>第4回 レファレンスサービスの理論(1)（利用者の情報行動、レファレンスサービスプロセス等）</p> <p>第5回 レファレンスサービスの理論(2)（事例の活用、組織と担当者、サービスの評価等）</p> <p>第6回 レファレンスサービスの実際と方法(1)（レファレンスサービスの体制づくり等）</p> <p>第7回 レファレンスサービスの実際と方法(2)（レファレンスサービスの実際、インタビューの方法、普及、現状と問題点等）</p> <p>第8回 情報検索サービスの理論（利用者の情報行動、情報検索サービスプロセス、事例の活用、組織と担当者、サービスの評価等）</p> <p>第9回 情報検索サービスの実際と方法（情報検索サービスの実際、インタビューの方法、普及、現状と問題点等）</p> <p>第10回 各種情報源の解説と評価（参考図書、ネットワーク情報資源等を含む）</p> <p>第11回 新しい情報源の特質と利用方法（電子ブック、電子ジャーナル、データベース、オープンソース等）</p> <p>第12回 各種情報源の組織化（二次資料の作成及び参考文献の作成、情報発信を含む）</p> <p>第13回 発信型情報サービス（パスファインダー）の意義及び実際と方法</p> <p>第14回 発信型情報サービス（機関リポジトリ・オープンソース）の意義及び実際と方法</p> <p>第15回 図書館利用教育の意義及び実際と方法（情報リテラシーの育成を含む）及びまとめと試験</p>						
授業外における学習（準備学習の内容）	<p>授業前学習：授業計画や授業中に予告した教科書の該当する箇所を読んできてください。</p> <p>授業後学習：授業中に説明した内容について図書館等（本学図書館、公共図書館等）で確認してください。</p>						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	試験（60％）、レポート（40％）						
教科書	『情報サービス：概説とレファレンスサービス演習』 第3版 志保田務・平井尊士編著 谷本達哉・中村恵信・前川和子・井上祐子著 学芸図書 ISBN978-4-7616-0396-0						
参考書	授業中に適宜指示します。						

科目区分	司書課程科目						
科目名	情報資源組織演習A/資料組織演習A						
担当教員	槻本 正行						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	2	単位数	1.0
授業のテーマ	資料組織概説で学習した内容を踏まえて、演習問題を通じて、主題分類法(この科目では「日本十進分類法」を中心に行う)の実際について、その技術を習得する。						
授業の概要	主題分類法の考え方とその技術を修得するとともに、日本における資料組織のための三大ツールのうち、特に『日本十進分類法 第9版(NDC9)』の構造および適用法について、演習を通じて理解を深めることを目的とする。						
到達目標	コ本十進分類法の体系を理解する。 日本十進分類法によって、基本的な分類記号が付与できる。 件名についての基礎的知識を習得する。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. NDC9の概略と構成 本表、補助表、相関索引 2. 人文科学(1): 哲学・宗教 (1類) 3. 人文科学(2): 歴史(2類) 4. 人文科学(3): 伝記・地理 (2類) 5. 一般補助表(1): (形式区分、地理区分) 6. 人文科学(4): 芸術 (7類) 7. 人文科学(4): 言語 (8類)・文学 (9類) 8. 一般補助表(2): (言語区分、言語共通区分、文学共通区分) 9. 社会科学(1): 社会科学 (3類) 10. 社会科学(2)産業 (6類) 11. 自然科学 (4類)・技術 (5類) 12. 総記 (0類) 13. 分類規程 14. 日本件名標目表 15. 件名付与演習 						
授業外における学習(準備学習の内容)	事前学習としては、資料組織概説で学習した内容を復習しておくこと。ほぼ、毎回、学習内容に係る演習問題の宿題が課されるので、事後学習を怠らぬことが大切となる。						
授業方法	演習形式。はじめの数回を除いて、学習した内容について時間内および宿題の形で演習問題を課す。当該時間内またはその翌週に答合せと解説を行う形で演習を進める。						
評価基準と評価方法	定期試験(80%)と小テスト、演習課題、授業への取り組み(20%)により総合的に評価する。						
教科書	志保田務、高鷲忠美「情報資源組織法 -資料組織法-改」 第一法規, 2012年刊 なお、この教科書は後期の情報資源組織演習B/資料組織演習Bにも引き続き使用できます。						
参考書							

科目区分	司書課程科目						
科目名	情報資源組織演習A/資料組織演習A						
担当教員	槻本 正行						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜5	配当学年	2	単位数	1.0
授業のテーマ	資料組織概説で学習した内容を踏まえて、演習問題を通じて、主題分類法(この科目では「日本十進分類法」を中心に行う)の実際について、その技術を習得する。						
授業の概要	主題分類法の考え方とその技術を修得するとともに、日本における資料組織のための三大ツールのうち、特に『日本十進分類法 第9版(NDC9)』の構造および適用法について、演習を通じて理解を深めることを目的とする。						
到達目標	コ本十進分類法の体系を理解する。 日本十進分類法によって、基本的な分類記号が付与できる。 件名についての基礎的知識を習得する。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. NDC9の概略と構成 本表、補助表、相関索引 2. 人文科学(1): 哲学・宗教 (1類) 3. 人文科学(2): 歴史(2類) 4. 人文科学(3): 伝記・地理 (2類) 5. 一般補助表(1): (形式区分、地理区分) 6. 人文科学(4): 芸術 (7類) 7. 人文科学(4): 言語 (8類)・文学 (9類) 8. 一般補助表(2): (言語区分、言語共通区分、文学共通区分) 9. 社会科学(1): 社会科学 (3類) 10. 社会科学(2)産業 (6類) 11. 自然科学 (4類)・技術 (5類) 12. 総記 (0類) 13. 分類規程 14. 日本件名標目表 15. 件名付与演習 						
授業外における学習(準備学習の内容)	事前学習としては、資料組織概説で学習した内容を復習しておくこと。ほぼ、毎回、学習内容に係る演習問題の宿題が課されるので、事後学習を怠らぬことが大切となる。						
授業方法	演習形式。はじめの数回を除いて、学習した内容について時間内および宿題の形で演習問題を課す。当該時間内またはその翌週に答合せと解説を行う形で演習を進める。						
評価基準と評価方法	定期試験(80%)と小テスト、演習課題、授業への取り組み(20%)により総合的に評価する。						
教科書	志保田務、高鷲忠美「情報資源組織法 -資料組織法-改」 第一法規, 2012年刊 なお、この教科書は後期の情報資源組織演習B/資料組織演習Bにも引き続き使用できます。						
参考書							

科目区分	司書課程科目						
科目名	情報資源組織演習B／資料組織演習B						
担当教員	槻本 正行						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	2	単位数	1.0
授業のテーマ	資料組織概説で学習した内容を踏まえて、演習問題を通じて、主題目録法(この科目では「日本目録規則 1987年版改訂版」を中心に行う)の実際について、その技術を習得する。						
授業の概要	日本における資料組織のための三大ツールのうち、特に『日本目録規則 1987年版改訂版(NCR1987rev.)』の構造および適用法について、演習を通じて理解することを目的とする。 そのため、資料組織概説で学習したことの復習から始めて、『日本目録規則 1987年版改訂版(NCR1987rev.)』に基づき記述エリアごとに詳説しつつ、カード目録の作成演習を行う。後半は、国立情報学研究所のNAVSIS-CATの目録データ構造を学び、『目録情報の基準』等に基づきコンピュータ目録の作成演習を行う。						
到達目標	『日本目録規則 1987年版改訂版(NCR1987rev.)』で用いられる主要な用語が理解できる。 同目録規則に準拠した目録データを作成できるようになる。 国立情報学研究所のNAVSIS-CATの目録データ構造を理解できる。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 『日本目録規則 1987年版改訂版』の概略と構成 2. 書誌階層 3. 記述に関する総則、記述目録法とは、基本的な項目と標目指示など 4. 目録記述の精粗 5. タイトルと責任表示の記述演習 6. 版、出版の記述演習 7. 形態、ISBNの記述演習 8. 注記の記述演習 9. 標準番号、入手条件の記述 10. 継続資料の目録 11. JAPAN MARCのデータ構造 NACSIS CATのデータ構造 12. 目録演習(1) 和図書単行レベル 13. 目録演習(2) 和図書集合レベル 14. 書誌ユーティリティ 15. これからの目録、試験 						
授業外における学習(準備学習の内容)	事前学習としては、資料組織概説で学習した内容を復習しておくこと。ほぼ、毎回、学習内容に係る演習問題が課されるので、事後学習を怠らざること大切となる。						
授業方法	演習						
評価基準と評価方法	定期試験(90%)と授業時の演習課題への取り組み態度(10%)により総合的に評価する。						
教科書	志保田務、高鷲忠夫「情報資源組織法 -資料組織法・改」 第一法規 2012年刊						
参考書							

科目区分	司書課程科目						
科目名	情報資源組織演習B／資料組織演習B						
担当教員	槻本 正行						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜5	配当学年	2	単位数	1.0
授業のテーマ	資料組織概説で学習した内容を踏まえて、演習問題を通じて、主題目録法(この科目では「日本目録規則 1987年版改訂版」を中心に行う)の実際について、その技術を習得する。						
授業の概要	日本における資料組織のための三大ツールのうち、特に『日本目録規則 1987年版改訂版(NCR1987rev.)』の構造および適用法について、演習を通じて理解することを目的とする。 そのため、資料組織概説で学習したことの復習から始めて、『日本目録規則 1987年版改訂版(NCR1987rev.)』に基づき記述エリアごとに詳説しつつ、カード目録の作成演習を行う。後半は、国立情報学研究所のNAVSIS-CATの目録データ構造を学び、『目録情報の基準』等に基づきコンピュータ目録の作成演習を行う。						
到達目標	『日本目録規則 1987年版改訂版(NCR1987rev.)』で用いられる主要な用語が理解できる。 同目録規則に準拠した目録データを作成できるようになる。 国立情報学研究所のNAVSIS-CATの目録データ構造を理解できる。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 『日本目録規則 1987年版改訂版』の概略と構成 2. 書誌階層 3. 記述に関する総則、記述目録法とは、基本的な項目と標目指示など 4. 目録記述の精粗 5. タイトルと責任表示の記述演習 6. 版、出版の記述演習 7. 形態、ISBNの記述演習 8. 注記の記述演習 9. 標準番号、入手条件の記述 10. 継続資料の目録 11. JAPAN MARCのデータ構造 NACSIS CATのデータ構造 12. 目録演習(1) 和図書単行レベル 13. 目録演習(2) 和図書集合レベル 14. 書誌ユーティリティ 15. これからの目録、試験 						
授業外における学習(準備学習の内容)	事前学習としては、資料組織概説で学習した内容を復習しておくこと。ほぼ、毎回、学習内容に係る演習問題が課されるので、事後学習を怠らざること大切となる。						
授業方法	演習						
評価基準と評価方法	定期試験(90%)と授業時の演習課題への取り組み態度(10%)により総合的に評価する。						
教科書	志保田務、高鷲忠夫「情報資源組織法 -資料組織法・改」 第一法規 2012年刊						
参考書							

科目区分	司書課程科目						
科目名	情報資源組織論／資料組織概説						
担当教員	森 美由紀						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	木曜5	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	図書館における情報資源組織化について						
授業の概要	印刷資料・非印刷資料・電子資料とネットワーク情報資源からなる図書館情報資源の組織化の理論と技術について、書誌コントロール、書誌記述法、主題分析、メタデータ、書誌データの活用法等を解説する。						
到達目標	1. 図書館における情報資源組織化の特徴について、答えられるようにする。 2. 記述目録法について理解する。 3. 主題組織法の概要について理解する。						
授業計画	第1回 情報資源組織化の意義と理論 第2回 図書館にみる情報資源組織化 第3回 書誌コントロールと標準化 第4回 目録の役割と種類、歴史 第5回 書誌記述法（主要な書誌記述規則） 第6回 書誌情報の作成と流通（MARC、書誌ユーティリティ） 第7回 書誌情報の提供（OPACの管理と運用） 第8回 コンピュータ目録の検索機能 第9回 分類の役割と種類、歴史 第10回 主題分析の意義と考え方 第11回 主題分析と分類法（主要な分類法） 第12回 主題分析と索引法（主要な統制語彙） 第13回 ネットワーク情報資源の組織化とメタデータ 第14回 多様な情報資源の組織化（地域資料、行政資料等） 第15回 まとめ、試験						
授業外における学習（準備学習の内容）	公共・大学図書館にある蔵書検索（OPAC）を利用し、本を書架から見つけだし利用しておくこと。さらに利用者にとってどのような目録が使いやすいか、蔵書検索（OPAC）を使って考えておいてください。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	・課題40%、まとめのテスト60% ・講義最終時限にまとめのテストを実施する。						
教科書	『情報資源組織論』ミネルヴァ書房（近刊予定）						
参考書	授業中に適宜紹介する。						

科目区分	司書課程科目						
科目名	児童サービス論						
担当教員	中西 美季						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	図書館児童サービス研究						
授業の概要	公共図書館における児童サービスの現状と課題を概説する。少なからぬ絵本や児童文学などの実物を見ながら、その特性をとらえ、それらの資料を子どもに橋渡しするための技術を、デモンストレーションをまじえて解説する。その上で、図書館にできる乳幼児からヤングアダルト、保護者、地域へのサービスを考える。						
到達目標	子どもを知り、資料を知り、それらを橋渡しするためのノウハウを会得する。						
授業計画	第1回 オリエンテーション・デモンストレーション・児童図書館とは 第2回 児童図書館の歴史と現状・発達と学習における読書の役割 第3回 子どもと子どもの本を知る1 絵本1 読み聞かせ 第4回 子どもと子どもの本を知る2 絵本2 乳幼児サービス 第5回 子どもと子どもの本を知る3 昔話1 第6回 子どもと子どもの本を知る4 昔話2 ストーリーテリング 第7回 子どもと子どもの本を知る5 児童文学 第8回 子どもと子どもの本を知る6 各種資料 第9回 書評、照会文、カウンターワーク、フロアワーク 第10回 フックトーク、ブックリスト、ディスプレイ、行事 第11回 学習支援としての児童サービス、学校、学校図書館の活動 第12回 ヤングアダルトサービス 第13回 運営、サービス計画と評価、学校や地域との連携・協力 第14回 建築、施設、設備、読書活動推進 第15回 図書館の自由、トピックス、総括						
授業外における学習（準備学習の内容）	Required Preparation 近くの図書館でのサービスを観察、体験し、子どもの本に触れておくとう理解が深まります。						
授業方法	講義形式						
評価基準と評価方法	数回のレポート（90%）、平常点（10%）						
教科書	使用せず						
参考書	『児童図書館サービス1』日本図書館協会児童青少年委員会編 日本図書館協会 ISBN:4-8204-1106-2						

科目区分	司書課程科目						
科目名	図書・図書館史／図書及び図書館史						
担当教員	槻本 正行						
学期	後期 前半	曜日・時限	金曜5	配当学年	2	単位数	1.0
授業のテーマ	日本の図書の歴史、図書館の歴史を中心に学ぶ。						
授業の概要	図書館は古代から現代まで3000年以上の歴史をもつ。図書館は、その時代、その置かれた社会から影響を受けながらも人類の知を継承する存在として、社会の発展と学術・文化の発達に寄与してきた。この授業では、日本における記録メディアの変遷と日本の図書館史に焦点をあてて解説する。						
到達目標	各種の記録メディアの発生についての知識を習得する。 図書の形態の変遷についての知識を習得する。 日本における図書館(文庫等の図書館類似施設)の歴史的な展開を代表的な例と全体的な流れのなかで把握する。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 記録メディアの歴史 2. 日本における図書の歴史 -江戸末期まで 3. 日本の図書館史 中世から近世の図書館(図書館類似施設) 4. 日本の図書館史 幕末から明治へ 5. 日本の図書館史 明治、大正期の図書館 6. 戦前期の日本の公共図書館 7. 戦後日本の公共図書館史 8. 諸外国の図書館史 						
授業外における学習(準備学習の内容)	授業の進度は速い。初回を除いて教科書を事前学習として読んだ上で出席すること。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	課題レポート(80%)と授業中に実施する小テスト(20%)						
教科書	小黒浩司編著『図書及び図書館史』(JLA図書館情報学テキストシリーズ II期-12) 日本図書館協会 2009年刊						
参考書	授業中に適宜指示します。						

科目区分	司書課程科目						
科目名	図書館概論						
担当教員	槻本 正行						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	金曜4	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	ふだん利用している図書館(公立図書館や大学図書館など)は“どのようにして生まれたのか”をスタート地点として、図書館とはどのようなものか、図書館の機能や現代社会における意義、役割について学ぶ。						
授業の概要	図書館というシステムをその構成要素、機能、社会的意義、価値等から検討することを通じて図書館の基礎的なことについて解説する。その上で、公立図書館の成立・展開といった歴史的側面と館種別図書館の概要と現状といった水平的側面から図書館について解説する。そのようなことを踏まえて、図書館で働く図書館職員、広い意味での図書館ネットワークについて説明するとともに、これからの図書館の変わるべき点、変わらない点を考える手がかりとなるように講義を行う。 については、講義内容に関連して受講生の図書館体験や意見などの発言を求める。						
到達目標	1 図書館とはどのようなものであり、どのような社会的役割を果たしているのかを理解する。 2 現代の図書館がどのようにして、生まれ、展開、発展してきたかを理解する。 3 館種別に(公立図書館、大学図書館、、、など)図書館をみていくことで、その利用者、ニーズ、動向を大まかに理解する。						
授業計画	1 オリエンテーション -図書館とは何か、司書課程で学ぶこと、図書館の現状と動向 2 図書館の構成要素、図書館の機能 3 図書館の業務モデル 4 図書館の社会的意義 5 記録、文化の伝承と図書館 -図書館の始原と世界の図書館 6 公立図書館の成立と展開 -イギリス、アメリカに見る 7 わが国における公立図書館の成立と発展 8 館種別に見る図書館の機能と利用者ニーズへの対応(1) 公立図書館 9 館種別に見る図書館の機能と利用者ニーズへの対応(2) 国立国会図書館 10 館種別に見る図書館の機能と利用者ニーズへの対応(3) 大学図書館 11 館種別に見る図書館の機能と利用者ニーズへの対応(4) 学校図書館 12 館種別に見る図書館の機能と利用者ニーズへの対応(5) 専門図書館 13 図書館職員-その資質、資格制度、役割 14 図書館関連団体、図書館学術団体と図書館の類縁機関 15 総まとめ-図書館を取り巻く課題と展望 と試験						
授業外における学習(準備学習の内容)	司書課程で学習する内容の基礎となる科目ため、事前学習より、事後学習(復習)を心がけること。						
授業方法	講義形式、ただし随時みなさんの図書館についての印象や意見を口頭なり、ミニレポートとして求めます。						
評価基準と評価方法	授業への参画態度とミニレポート(10点)、定期試験(90点)によって評価します。						
教科書	二村健著『図書館の基礎と展望』(ベーシック司書講座・図書館の基礎と展望 1) 学文社、2011年						
参考書	塩見昇『図書館概論』(JLA図書館情報学テキストシリーズⅢ-1) 日本図書館協会、2012年 その他は授業中に適宜指示します。						

科目区分	司書課程科目						
科目名	図書館基礎特論						
担当教員	槻本 正行						
学期	後期 後半	曜日・時限	金曜5	配当学年	2	単位数	1.0
授業のテーマ	司書課程の基礎的科目で学習する内容のなかから、基本的理念に関わるテーマを取り上げて論じる。図書館の自由をめぐる問題を扱う。						
授業の概要	「図書館の自由に関する宣言」と図書館の自由に関わる具体的な事案について、図書館の資料収集の自由、資料提供の自由、利用者のプライバシー保護、検閲の問題について検討する。						
到達目標	なぜ「図書館の自由」が自由が大切なのか、「図書館の自由宣言」で述べられている項目に関して、過去の具体的な事案を検討することを通じて、実際に事態に直面した際に適切な判断が下せる理解力を養うことを目標とする。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 知る権利、知的自由と図書館 2. 「図書館の自由に関する宣言」その採択、内容 3. 図書館の資料収集に関する事案 4. 図書館の資料提供に関する事案 (1) 5. 図書館の資料提供に関する事案 (2) 6. 利用者の秘密を守ることにに関する事案 7. 図書館はすべての検閲に反対することにに関する事案 まとめ 						
授業外における学習（準備学習の内容）	「図書館概論」で学習した内容を自身で復習、確認しておくこと。取り扱う事案については、前の週に教材を配布するので一読して、各自の意見、感想を持ったうえ授業に出席すること。						
授業方法	図書館の自由についての過去の事案を採り上げて、図書館の対応、報道、判決文、日本図書館協会図書館の自由委員会の声明等の資料を読み解きながら、経緯の理解、問題点の把握ができる形で授業を行う。						
評価基準と評価方法	授業での発言、発表等の授業への参画度(20%)と課題レポート(80%)にて評価する。						
教科書	特に使用しない。毎回、プリント教材を配布する。						
参考書	適宜、授業の中で指示します。						

科目区分	司書課程科目						
科目名	図書館サービス概論／図書館サービス論						
担当教員	長谷川 雄彦						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	金曜4	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	図書館サービスは、図書館の機能を具体化し、実践する活動であり、利用者を中心に考えて行われなければならない。このような図書館サービスについて、その意義、方法、特徴について学ぶとともにその具体的なサービスについて理解する。						
授業の概要	図書館サービスの理念と意義を概説し、資料提供サービス、情報提供サービス、利用対象者別サービスに大別してその意義や技法について解説する。あわせて、できるだけ各種サービスについて具体的な実践例を提示して、図書館サービスの実際を理解できるようにする。						
到達目標	図書館が提供している様々なサービスについて、その名称と具体的な活動内容を把握する。またそれぞれのサービスがどのような考え方に基づいて準備、実践されるのかを理解する。そして、図書館サービスというものは図書館員を介して行われるものであるということ意識する。						
授業計画	第1回 図書館サービスの考え方 第2回 図書館サービスの構造：種類と特徴 第3回 戦後日本の図書館サービスの変遷 第4回 公共図書館における資料提供システムと図書館協力 第5回 資料提供サービスの基本 第6回 資料提供サービスの実際 (1)：閲覧・貸出・利用案内 第7回 資料提供サービスの実際 (2)：予約・リクエスト・複写サービス 第8回 情報提供サービスの基本 第9回 情報提供サービスの実際 (1)：レファレンスサービス 第10回 情報提供サービスの実際 (2)：情報検索サービス・課題解決支援サービス 第11回 情報提供サービスの実際 (3)：集会活動・広報活動 第12回 利用対象者別の図書館サービス 第13回 図書館利用に障害がある利用者に対するサービス 第14回 高齢者サービス、多文化サービス 第15回 図書館サービスと著作権						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業で学ぶだけでなく、居住地や近隣の自治体の公共図書館を実際に見に行くことを心がけてほしい。授業後はしっかり復習をするとともに、それぞれの図書館での実際のサービスも見てほしい。						
授業方法	講義形式。適宜、具体的なサービス事例を紹介しながら進める。						
評価基準と評価方法	授業の平常点(毎授業後の小テスト、課題・レポートなど) 40%、および期末試験60% で評価する						
教科書	なし（レジュメにより授業を行います）						
参考書	参考書は授業時に適宜、指示します。						

科目区分	司書課程科目						
科目名	図書館サービス特論						
担当教員	中村 恵信						
学期	後期 前半	曜日・時限	木曜5	配当学年	2	単位数	1.0
授業のテーマ	図書館サービスの実際の理解						
授業の概要	図書館サービス概論の内容を発展的に学習し、理解を深める観点から、図書館サービスに関する領域の課題を選択し、講義や演習を行う。「図書館サービス概論」を実践的に活用するための演習を組み込み、「図書館サービス概論」で概説的に扱った図書館サービスについて、「図書館サービス特論」では焦点化した授業展開により、図書館サービスについての理解を深める。						
到達目標	図書館サービス概論の実際を演習形式で理解し、資料提供、情報提供、連携・協力、課題解決支援、障害者、高齢者、多文化サービスを実際に行えるようにする。						
授業計画	第1回 図書館サービスの変遷 第2回 直接サービス（パブリックサービス）の種類 第3回 資料提供と図書館の自由、図書館員の倫理 第4回 図書館サービス各種 第5回 利用者別サービス各種 第6回 アウトリーチ・多文化サービス・高齢者サービス 第7回 障害者サービス 第8回 展望・まとめと試験						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前学習：授業計画や授業中に予告した教科書の該当する箇所を読んできてください。 授業後学習：授業中に説明した内容等を図書館等（本学図書館、公共図書館等）で確認してください。						
授業方法	講義と演習						
評価基準と評価方法	試験（60%）、レポート（40%）						
教科書	『図書館サービス概論』（実践図書館情報学シリーズ；3）志保田務・杉山誠司・家瀬淳一編著 学芸図書 ISBN978-4-7616-0435-6						
参考書	授業中に適宜指示します。						

科目区分	司書課程科目						
科目名	図書館施設論						
担当教員	中村 恵信						
学期	後期 後半	曜日・時限	木曜5	配当学年	2	単位数	1.0
授業のテーマ	図書館施設の実際と理解						
授業の概要	利用者のための地域計画としての図書館ネットワーク案及び建築計画としての図書館設置計画案を作成し、ベンダーのカタログを利用し実際の館内のサイン計画及び図書館家具等を考えて、カウンター、閲覧席、閲覧椅子、AVルーム等の計画が行えるようにする。						
到達目標	必修の各科目で学んだ内容を発展的に学習し、理解を深める観点から、図書館活動・サービスが展開される場としての図書館施設について、地域計画、建築計画、その構成要素等を理解する。						
授業計画	第1回 場としての図書館とは 第2回 図書館システムと地域計画・建築計画・規模計画 第3回 図書館建築の構成要素 第4回 図書館の内装計画・環境計画 第5回 複合・併設館について 第6回 図書館建築の実例・図面と図学の基本 第7回 バーチャル図書館の設計と表現・評価 第8回 展望及びまとめと試験						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前学習：授業中計画や授業中に予告した教科書の該当する箇所を読んでください。 授業後学習：授業中に説明した内容等を図書館等（本学図書館、公共図書館等）で確認してください。						
授業方法	講義と演習						
評価基準と評価方法	試験（60%）、レポート（40%）						
教科書	『図書館施設特論』（ベーシック司書講座・図書館の基礎と展望；9）福本徹著 学文社 ISBN978-4-7620-2199-2						
参考書	授業中に適宜指示します。						

科目区分	司書課程科目						
科目名	図書館情報技術論						
担当教員	中村 恵信						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	木曜4	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	図書館における利用者サービスを行うため情報技術の実際						
授業の概要	図書館業務に必要な基礎的な情報技術を修得するために、ネットワーク及びコンピュータ等の基礎、オープンシステム、図書館業務システム、電子ブック、電子ジャーナル、データベース、リンクリゾルバ、検索エンジン、ホームページによる情報発信等について解説し、必要に応じて演習を行う。						
到達目標	インターネットによる情報環境の急激な変更に対応できるように、情報資源においては電子ブック、電子ジャーナルを理解し、図書館サービスにおいてはネットワークを通じた図書館システムを構築し、広報において情報発信まで行い、電子図書館の管理・運営をできるようにする。						
授業計画	第1回 コンピュータとネットワークの基礎 第2回 館内LANの構成、サブネットワーク、プロトコル 第3回 コンピュータシステムの管理 第4回 データベースの仕組み 第5回 図書館業務システムの仕組み 第6回 館内ネットワークの仕様、仕様書 第7回 図書館における情報技術活用の現状 第8回 電子資料の管理技術 第9回 電子図書館とデジタルアーカイブ 第10回 最新の情報技術と図書館 第11回 情報技術と社会 第12回 インターネットと図書館 第13回 サーチエンジンの仕組み 第14回 Web2.0とLibrary2.0 第15回 展望及びまとめと試験						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前学習：授業計画や授業中に配布するプリントの該当する箇所を読んでください。 授業後学習：授業中に説明した情報技術を図書館等（本学図書館、公共図書館等）で確認してください。						
授業方法	講義と演習						
評価基準と評価方法	試験（60%）、レポート（40%）						
教科書	『図書館情報技術論』（ベーシック司書講座・図書館の基礎と展望 2）斎藤ひとみ・二村 健編著、学文社、ISBN978-4-7620-2192-3						
参考書	授業中に適宜指示します。						

科目区分	司書課程科目						
科目名	図書館情報資源概論／図書館資料論						
担当教員	槻本 正行						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	金曜5	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	図書館を構成する要素のひとつとしての図書館情報資源(図書館資料)について、その類型ごとに基礎的知識を習得する。また、図書館のコレクションの形成、管理、評価について、基本的な考え方や手法の基礎的知識を習得する。						
授業の概要	図書館情報資源(図書館資料)について、その類型ごとに現物資料や副教材(プリント配布)により、その特性、歴史、流通について概説する。また、図書館のコレクションの形成、管理について、選択、収集、保存についての基本的な考え方、具体的なツール、手法について説明する。						
到達目標	図書館情報資源(図書館資料)について、その類型ごとの名称、定義、特徴を理解する。 図書館情報資源(図書館資料)がどのような流通のしくみを持っているかを他の商品との違いと比較して説明できるようにする。 図書館における図書館情報資源(図書館資料)の収集、受入、保存がどのように行われているのかを理解する。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. この授業のガイダンス、図書館情報資源とは 2. 図書館情報資源の類型 —パッケージ型情報資源、ネットワーク情報資源をめぐって 3. 図書 —形態、版型、造本 4. 雑誌、新聞 5. 小冊子、地図、政府刊行物、灰色文献 6. 録音資料、映像資料 7. 電子資料、ネットワーク情報資源 8. 一次資料と二次資料 9. 出版流通のしくみ 10. コレクションの形成 (1) 資料の収集・選択 選択論 選書ツール 11. コレクションの形成 (2) 蔵書の評価、蔵書の更新 12. 人文・社会科学分野の情報資源とその特徴 13. 自然科学分野の情報資源とその特徴 14. 資料の受入、登録、配列 15. 資料の管理、蔵書点検、除籍 						
授業外における学習(準備学習の内容)	特に事前学習は必要としない。事後学習をしっかり行うことが望まれる。						
授業方法	講義形式で進める。前半の図書館情報資源(図書館資料)についての話題では、現物を提示または回覧するとともに簡単な作業も行う。						
評価基準と評価方法	試験によって評価します。						
教科書	伊藤民雄著『図書館情報資源概論』(ライブラリー図書館情報学 8) 学文社 2012年刊						
参考書	馬場俊明『図書館情報資源概論』(JLA図書館情報学テキストシリーズ Ⅲ期 7) 日本図書館協会 2012年刊 宮沢厚雄『図書館情報資源概論 改定版』理想社 2012年刊						

科目区分	司書課程科目						
科目名	図書館情報資源特論／専門資料論						
担当教員	中村 恵信						
学期	前期 前半	曜日・時限	木曜4	配当学年	2	単位数	1.0
授業のテーマ	図書館資料論、専門資料論、資料特論の統合						
授業の概要	印刷資料・非印刷資料・電子資料とネットワーク情報資源からなる図書館情報資源について、類型と特質、歴史、生産、流通、選択、収集、保存、図書館業務に必要な情報資源に関する課題を選択し解説する。従来の図書館資料論、専門資料論、資料特論の統合化をねらう。						
到達目標	印刷資料・非印刷資料・電子資料とネットワーク情報資源を情報・資料・メディアととらえて図書館情報資源について解説を行い、情報資源の生産（出版）と流通の課題を解説し、図書館コレクションとして形成及び提供する理論（資料の選択・収集・評価）、方法の課題についても解説をする。又、主題分野における情報資源の特性についても解説する。特に、電子、電子ブックについては現状・将来・提供方法を解説する。						
授業計画	第1回 学術・専門情報の意義と種類 第2回 学術・専門情報と二次情報 第3回 学術・専門情報の生産、流通、利用 第4回 郷土・行政資料 第5回 視聴覚メディアと図書館 第6回 電子ブック、電子ジャーナルの現状・将来・課題 第7回 情報メディアを取り巻く制度と政策 第8回 まとめと試験						
授業外における学習（準備学習の内容）	教科書や授業中に配布するプリントの該当する箇所を読んでください。授業中に説明した情報技術を図書館等（本学図書館、公共図書館等）で確認してください。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	試験（60%）、レポート（40%）						
教科書	『資料・メディア総論：図書館資料論・専門資料論、資料特論の統合化』第2版 志保田務・山本順—監修著 中村恵信・前川和子・渡邊隆弘編著 学芸図書 本体価格2200円						
参考書	授業中に適宜指示します。						

科目区分	司書課程科目						
科目名	図書館総合演習						
担当教員	槻本 正行						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	木曜5	配当学年	3	単位数	1.0
授業のテーマ	公立図書館に関するテーマについて調査研究レポートを作成することを通じて、調査法、研究法の基礎を習得する。						
授業の概要	受講生の設定したテーマに応じて、先行研究の調査、レビューの作成、調査手法、分析といった過程を講義をまじえつつ、演習を行う。 そのため、取り扱うテーマに応じて授業計画に示した内容に濃淡が生じる。また、該当する調査、研究法が適用されないような場合は、サンプルデータなどを用いて講義形式で説明する。						
到達目標	受講生各自の問題意識に基づくテーマについて調査し、調査研究レポートを作成する。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 本習の進め方、各自のテーマ設定について 2. 先行研究の調査、選考研究文献の入手 3. 先行研究の文献リストの作成 参考文献記述法 (SIST02、学問領域での記述法の相違) 4. 先行研究の調査のまとめ 5. 主要な先行研究の概要把握 6. 研究レビューの作成 7. 文献研究とフィールドワーク (現地視察、観察調査、質問紙調査) 8. 調査手法の検討 9. 具体的な調査方法 10. データの分析、統計解析ソフトの利用 11. データの記述 12. 統計的検定 13. 調査レポートのまとめ 14. 調査レポートの発表と質疑応答 15. 講評とアドバイス 						
授業外における学習 (準備学習の内容)	授業時間内で作業を行うことは困難であるため、各自が設定したテーマについて継続的に準備学習の時間が必要となる。						
授業方法	演習と講義						
評価基準と評価方法	各自の調査、研究課題の口頭での報告と本演習としてのまとめとして提出される調査研究レポートにより、評価する。						
教科書	使用しない。受講生各自のテーマに応じて、読むべき資料を指示したり、プリントを配布する。						
参考書							